

MEIJI-MURA

明治村だより

Vol.49 2007 Autumn

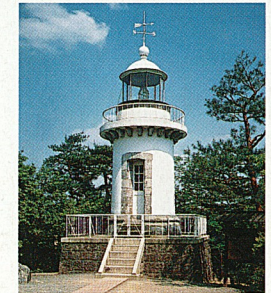
特集 芝川又右衛門邸

- 芝川又右衛門邸移築の経緯 西尾雅敏 2
- 芝川又右衛門邸移築復原事業 竣工を前にして 4
- 移築竣工特別展 「あこがれの郊外住宅～芝川又右衛門邸と武田五一～」 8
- 秋の催しもの 12
- アメリカを変えたハワイの日本人 14
- A La Meiji-mura 15



平成19年9月18日発行
 「明治村だより」第49号(平成19年秋)
 発行 博物館明治村
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一番地
 電話 (0568) 67-0314
 http://www.meijimura.com
 製作 大日本印刷株式会社

「明治村だより」第50号発行のお知らせ
 発行時期 平成19年12月初旬(予定)
 申込方法 「明治村だより」第50号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。



表紙 品川燈台【重要文化財】
 旧所在地 東京都港区品川
 建築年代 明治3年(1870)

お詫び
 先号(Vol.48)に下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
 誤 → 正
 4ページ 下段9行目 一九五三年 → 一九六三年
 7ページ 写真7 左・明治初期、右・現代 → 左・現代、右・明治初期



芝川又右衛門邸移築の経緯

建造物担当部長 西尾雅敏

「事実は小説より奇なり」

時代を画する建物には、驚きに値するいきさつがついて回るようだ。帝国ホテル中央玄関が博物館明治村に移築復元されるに至った最後の舵は、時の首相佐藤栄作氏



震災直後の芝川邸

の記者会見での発言であった。昭和四十二年春から約半年にわたって日本中で喧々諤々の議論を重ねても、建物保存への道筋が見えてこなかった帝国ホテルであったが、訪米中の首相に或るアメリカ人記者から「帝国ホテル取り壊しについて総理大臣としてどのように考えるか」との質問があつて、それに答える形で首相が出した案が「明治村への移築」であつて、明治村が応じたのである。

帝国ホテルが救われてから約三十年、平成七年一月十七日早朝、神戸を中心に大地震が襲つた。帝国ホテルが東京日比谷に竣工オープンした大正十二年九月一日に発生した関東大震災を凌ぐ大地震で、多くの人命が失われ、たくさんの建物が倒壊した。その「阪神

淡路大地震」の中で、辛うじて倒壊は免れた建物の一つが芝川邸である。芝川家ご当主である又彦氏の祖父又右衛門氏が明治末年に建てた。西宮市甲東園の奥まった地に立ち、今でこそ周辺に立つ数多くの高級住宅群の要的な建物だが、創建の頃は、野中の一軒家であつた。周辺の丘陵地を開墾して果樹園を始めた又右衛門氏が、その管理を兼ねた住宅として建てたもので、六甲山系などを見渡す別荘でもあつた。

阪神淡路大地震から一週間ほどして、芝川又彦氏から竹中工務店大阪本店設計部長の赤尾建蔵氏に電話が入つた。「建物の被害が厳しいから相談したい」と。日頃から仕事上の付き合いがあつて自宅を訪ねることも多かった赤尾氏は、早速芝川家に向き、建物の被害調査を行った。解体直前の写真を見ても判るとおり、正面に目立っていたはずの煉瓦煙突が無くなつていた。室内は一階ホールを始め、左官壁がかなり剥落していたが、主要な柱に折損の被害は見受けられず、赤尾氏の診断結果は「壁の修理などを施せば、再使用が可能です」というものであつた。しかし、持ち主の側では、住み続けることに心理的な抵抗が強く残つていた。

赤尾氏の奔走が始まつた。武田五一によって設計された住宅として、既に有名になっていた建物である。周辺自治体などで保存の計画は生れないか、各所に話を持ちかけたが、どこも答えは同じであつた。「震災による罹災者のため、今住む場所を復旧することが先決。文化財級とは言え、建物移築保存など余裕はない。」

赤尾氏が最後にたどり着いたのが博物館明治村であつた。当時の館長は村松貞次郎先生であつたが、村松先生の一つの研究課題に大工道具があり、竹中大工道具館の準備から創立、運営に深く関わつてこれ、時折は設計部門の人たちにお話をなされてきた。その縁を頼りに、赤尾さんは明治村に移築引取りを打診してきたのである。

早速、村松先生と西尾が拝見に伺つた。明治末年の創建とは言うが、もつと斬新な印象であつた。ヨーロッパ

も、景観的にも、興味豊かな地域となることは間違いないかつた。

設計や木工事が好意によって進められるとしても、やはり資金が必要。飯田館長、事務方が奔走、愛知県文化庁、文部科学省、財務省など諸官庁に働き掛け、明治村を寄付金の免税措置を受けられる特定公益増進法人に認可していただいた。当初、どれほど寄付をいただけたかは想像がつかなかったが、工事開始の目処は立つたのである。

さらに、多くの軽作業のため「芝川邸作業ボランティア」を募集したところ、約三十人の方が参加して下さることとなつた。

平成十六年暮、伐採工事が始まつた。

にしお・まことし



解体前の芝川邸（北面）

建物を復原する場所は決まっていたと言える。村の中心ほど、北里研究所本館の東隣で、坐漁荘へ向かう道に面した場所である。昔、東京芸大奏楽堂の受入れが打診された時、確保した台地であり、名建築のために手を付けることなく残されていた。芝川邸が復原されれば、北隣には長崎居留地25番館、神戸山手西洋人住居と連なり、東へ坐漁荘、蝸牛庵が位置して、明治初年から昭和初年までの多彩な住宅群が出来る上がる。学問的に



創建当時の芝川邸

新世紀の建築を思わせる、造形感覚に溢れたデザインであり、大広間の格天井は日本的な風景でもある。広い庇がゆつたりと回りを囲み、バランスの良い建物であつた。視察を終え、東京で協議があつた。大変良い建物で遺すべき物だが、明治村にそれを賄う資金の目途は無い。

それまで明治村に移された建物は、その解体から復原まで、全て明治村が負担するのを常としていた。赤尾さんを通じ、恥を忍んで打診した。いつの日か、明治村に復原費用の目処がいたら建てます。今は資金がございませんで、解体費用を負担していただけないでしょうか。と。一月後、再び村松先生と二人、西宮を訪ねた。「何年先になるか判りませんが、必ず復原します」と。

話が決つて、周囲の人達の働きは素晴らしかつた。赤尾さん始め竹中工務店設計部の人達、神戸大学の学生さん達も、手弁当で建物実測をしてくれた。解体作業は、名古屋の魚津工務店に担当してもらつた。社寺建築が専門の魚津工務店の社長さんや専務さんは武田五一先生を

大変に尊敬している。武田五一先生が関西へ行く前しばらく名古屋にも居て、その折、色々とお話を聞き、今の工務店があると言つた。平成七年十二月、全ての解体部材が明治村に収容された。

「復原が何年後になるかわかりませんが」とは言つても、関係する全ての人が気に掛けていた。平成十五年七月、博物館明治村の現館長飯田喜四郎先生が日本建築学会の大賞をお受けになり、そのお祝いの席上で、魚津工務店専務の魚津源一さん（現社長）から「芝川邸復原しないの。木工事なら、うちがボランティアでやりますよ。」と言つてくださった。その言葉に後押しされ、大阪の赤尾さんに連絡し、八月の暑い日、神戸に向向いた。赤尾さんは大阪本店設計部から竹中大工道具館の館長に移られていたが、本店上層部、古果の設計部を説得してくださり、復原に関わる確認申請業務をお願いすることとなつた。

建物を復原する場所は決まっていたと言える。村の中

芝川又右衛門邸移築復原事業

竣工を前にして

明治四十四年^{※1}芝川家の二代目当主、芝川又右衛門により兵庫県西宮市甲東園の地に一棟の邸宅が創建されました。設計者は当時新進気鋭の建築家武田五一、洋館のスタイルをとりながら建物の随所に網代や葦簾といった数寄屋の手法を取り入れています。約百年の歴史を持つこの芝川又右衛門邸（以下芝川邸と略記する）は平成七（一九九五）年の阪神・淡路大震災の被害を受け調査解体の後博物館明治村へ寄贈されました。その後十年の歳月を経た平成十七（二〇〇五）年に博物館明治村の開村四十周年記念事業として芝川邸移築復原事業を立ち上げることができました。

現在、復原事業が始まって約三年が経過し竣工が間近となっております。ここで、復原事業の概要とこれまでの復原仕事を振り返ってみたいと思います。^{※3}

まず、復原事業を立ち上げるにあたり復原方針を決定する必要があります。明治時代の古写真を見ると創建当初建物の外壁は杉皮で覆われていたことがわかります（写真1）。しかし昭和八（一九三三）年に刊行された『武田博士作品集』に掲載されている芝川邸の写真を見ると外観はモルタル風の仕上げとなっており、この仕上げが解体当時まで続いたと考えられます。写真2。さらに建物内部は大掛かりな改造を受けた部分が多くみられ、特に二階浴室周りと二階茶の間は大きな改造を受けていることがわかりました。



武田五一

物内部は大掛かりな改造を受けた部分が多くみられ、特に二階浴室周りと二階茶の間は大きな改造を受けていることがわかりました。

は少々異なった試みを行いました。それは復原工事の中で発生する様々な軽作業を行っていたためボラントイアを募集したこととあります。募集の結果約三十名の方々にお集まりいただき、ボラントイア活動として古材の清掃、実測の手伝い、養生作業、現場の清掃など幅広く活躍していただき現在に至っております。

さて、今回の復原工事において苦労を要した部分について述べますと、やはり建物解体から実際の復原までに約十年間という時間が空いていることでした。芝川邸そのものがどのようなポリウムを持っていた建物であるか、あるいは詳細部分等、解体時の写真資料だけでは不十分なこともありました。それぞれの構造部材も十年間動かされずに保管されていたわけですから埃や汚れの堆積がひどく、また湿気等による材の変形が著しくなってしまうものも見受けられました。従って一つ一つの部材を復原に使用できるものか否か再調査する必要があります。一本一本の部材を丁寧に調べ、古釘等を抜き取りきれいに清掃するために約四ヶ月の時間を要しました。

その他工事の準備として芝川邸の外形、ポリウムを確認し建設予定敷地内における建物配置の決定を行う必要がありました。博物館明治村内の孟宗竹を切り出し、建物の棟高である約二メートルの竹二本と、軒高である約八メートルの竹四本を用意しました。これらを立ててそれぞれの先端をビニールテープで結び建物の凡その外形ラインを作り出すという作業を行いました。平成十七年五月、五月晴れの青空と新緑の木立の中、青い孟宗竹と黄色いテープによって作り出された芝川邸の外形ラインを見て、建物の大きさに圧倒されたことを覚えております（写真3）。

平成十七年六月に基礎工事を開始、十一月によろやく

※1 一部の記録には明治四十五年創建とある。
 ※2 解体に当たって株式会社竹中工務店設計部有志と神戸大学学生により詳細な実測調査が行われた。
 ※3 表1に全体工程表を示す。

今回の復原事業の方針として、上記『武田博士作品集』の写真が設計者武田五一の意思を反映するものであると判断し、外観は基本的に昭和八（一九三三）年当時の姿に可能な限り復原すること、建物内部については解体当時の仕様を参考とした上で旧仕様を判明する部分についてはその復原を行うこと、ただし度重なる改造により旧仕様も全く判明できない部分については同時代の建物の類例等を参考とし時代考証の元に再現を試みることを目標といたしました。

また、今回の復原事業において通常の復原工事方法と



写真2 芝川又右衛門邸（昭和8年頃）



写真1 芝川又右衛門邸（明治44年頃）



写真3 竹による建物外形の仮組み



写真5 軸部組立ての様子2 三階部分の組立



写真4 軸部組立ての様子1 二階部分の組立



写真6 軸部組立ての様子3 屋根部分の組立

表1 芝川又右衛門邸移築復原工事全体工程表

工事種別	平成17年												平成18年												平成19年								
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
古材繕い及び清掃等																																	
仮設																																	
PC基礎																																	
石及び煉瓦積																																	
木																																	
屋根																																	
煙突																																	
左官																																	
塗装																																	
板金																																	
建具																																	
内装																																	
苑路整備																																	
設備																																	



写真12 平成19年8月全景 素焼き色の瓦、外壁モルタル仕上げの復原状況



写真11 1階ベランダ東側を見る

ます。ぜひ甞つた芝川又右衛門邸を訪れていただき、設計者武田五一による洋と和の融合がもたらす洗練された空間を味わっていただきたいと思います。



写真10 二階階段室 金色塗装仕上げ2

今回の復原に際して、主要な構造部材についてはできるだけ解体時に使用されていたものを再利用しましたが、移築に伴う環境の変化、今後の建物活用における維持管理上の問題を鑑みて耐久性等を考慮しつつ、構造補強、旧来の仕様の変更、部材の新調を行う必要がありました。中でも震災時に多大な被害を受けた煉瓦造の二箇所の煙突については、鉄骨にて下地を組み、仕上げを昭和八年当時の外観に倣い外壁と同様のモルタル仕上げとして復原いたしました。

軸部を組立てる準備が整いました。建物の形状が複雑であることから組立には時間を要しましたが、翌平成十八年一月十七日には無事上棟式を執り行うことができました(写真4、5、6)。以降工事は順調に進められ、平成十八年八月頃ようやく主屋部分の外観、内部の間取りが確認できるようになりました。

その後工事は造作工事へと移行し、各室の天井の組立から開口部の造作、暖炉周りの造作、一階台所内部の造作へと進みました。中でも当建物の見せ場となる一階客室・食堂の網代、葦簾による格天井は格縁が細い上に破損状況が著しかったため大工棟梁が苦心し修理に時間を要した箇所です。すべての格縁が組みあがられ、網代、葦簾が市松に配置されると往時を偲はせてくれる見事な空間が甦りました(写真7)。

平成十九年に入ると工事も徐々に仕上げの工程へと入ってまいりました。屋根に葺かれるS字形素焼き色風の瓦を始め、凹凸の激しい外壁のモルタル仕上げ、建物内部階段室の渦巻き模様を施した漆喰壁仕上げ、その表面に塗られている金色の塗装、一階ベランダを始め各所に使用されるタイル等々、これらはすべて解体時に明治村へ持ってこられたサンプルと写真資料をもとに、何度も調査、試作を重ね新調いたしました(写真8、9、10)。



写真7 一階客室・食堂 格天井が組上がり、奥には煙突の鉄骨下地が見える



写真8 二階階段室 渦巻き模様の漆喰仕上げ復原のため特殊な道具を考案していた
写真9 二階階段室 金色塗装仕上げ1

あしがれの郊外住宅

芝川又右衛門邸と武田五一

芝川家

芝川家の祖と言われる芝河多仲は対馬の出身で、十八世紀中ごろ京都で医者を含み、その娘婿新六が大淀屋橋で「百足屋」を名乗り呉服商を開業しました。新六の娘婿新助の時に、淀屋橋から伏見町へ移り、唐物商を始め、百足屋新助と名乗ったと記録されています。新助の長女きぬは嘉永五年(一八五二)中川利三郎と結婚し、後に初代百足屋又右衛門(隠居後、又平と称す)と名乗り伏見町芝川家の祖ともいわれています。芝川家にはもう一つ羅紗店の芝川家がありますが、こちらは新助の二女コトの長女の婿養子芝川栄助を祖としています。羅紗店の芝川家は軍服用の羅紗を軍に納め明治時代後半から大正時代にかけて急成長しました。芝川栄助は日本毛織株式会社創業の際の発起人にもなっています。また美術品コレクターとして著名な芝川照吉はコトの二女イサの婿養子です。

伏見町芝川家では現在の貿易商にあたる唐物商を営んでいましたが、明治八年に初代又右衛門が家督を息子に譲り、さらに同十六年唐物商を廃業し、以降不動産が生業の中心となりました。

芝川家の当時の隆盛を示す好資料としては長者番付が挙げられます。「持丸鑑」や「長者鑑」などと命名された刷り物が各所で頻りに発行されました。明治十年代前半の番付をみると、「大阪芝川又右衛門」は三井・住友に次いで位置づけられています(写真1)。



芝川又右衛門(二代)

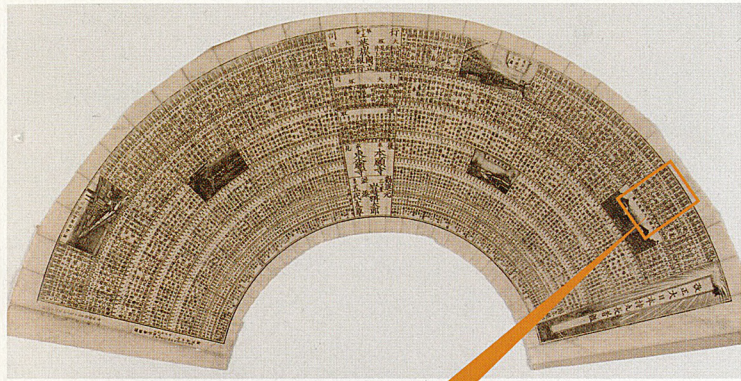
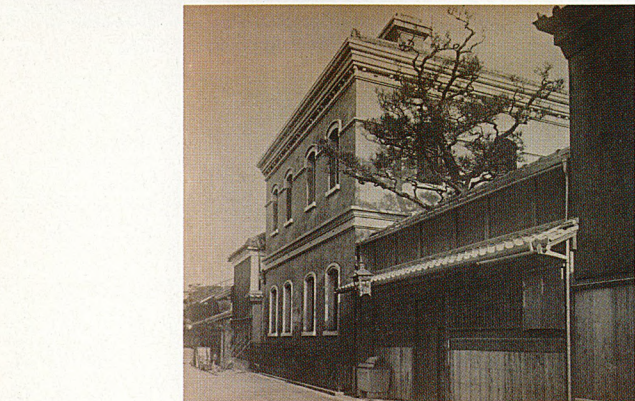
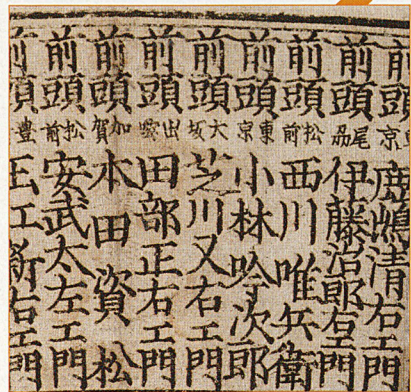


写真1 「改正大日本持丸長者鑑」明治12年12月発行



伏見町芝川邸 明治23年に建てられた洋館

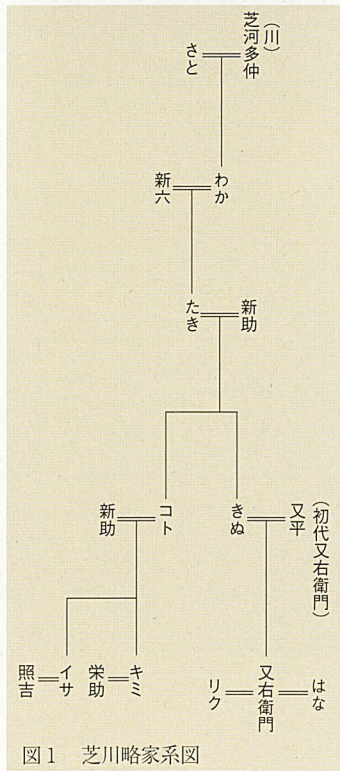


図1 芝川略家系図

甲東園

芝川又右衛門邸は兵庫県西宮市甲東園にあったものです。甲東園はもともとの地名を武庫郡甲東村土大市といひ、大市山が当時の通称でした。この土地は明治十七年(一八八四)、芝川家が入手し、本格的に土地の活用が始まったのは明治二十年代後半です。甲東園の土地は砂礫まじりの土地で稲作には不向きであったため、果樹の栽培を二代目又右衛門が思いつき、ブドウを手始めに温州ミカン・ネーブル・ナシ・モモ・カキなどを実験的に栽培し、実際に市場に出回るようになったのはブドウ・モモ・ナシなどでした。

今回移築された洋館は明治四十四年に竣工し、これを契機に果樹園だけであった甲東園が整備されていきます。建物の北側にはヨーロッパ風庭園、南側には茶室三棟が配置された池泉式の日本庭園が整えられていきます。二代目又右衛門はこの甲東園を会場に何度か茶会を開催しており、その記録が大阪府立中之島図書館などに遺されています(写真2)。参加者は野村得齋・住友春翠・村山龍平など関西の経済界の大御所と言える面々が名を連ねています。茶会は果樹園のモモの花が咲く頃を見計らって開催されることが多く、参加者からは桃花の美しさともてなしの丁寧さを称える文が返ってきています。また茶会への案内状には

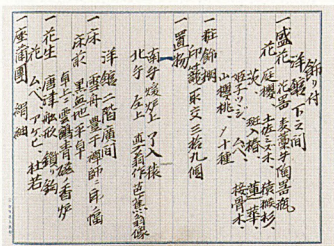
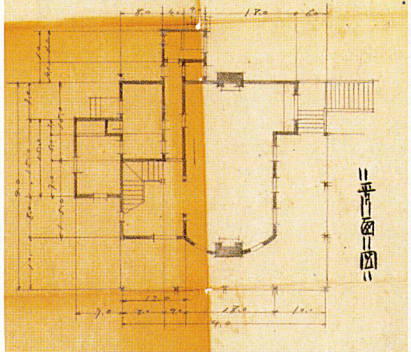
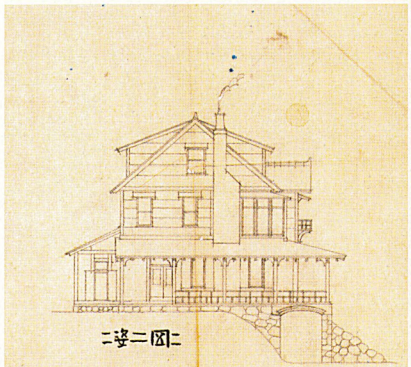


写真2 「大正茶会記録 大正三年」(菅宗次氏所蔵)



芝川邸図面(千島土地株式会社)
芝川邸は武田五一によって設計され、明治44年に竣工した。

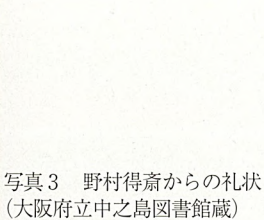


写真3 野村得齋からの礼状(大阪府立中之島図書館蔵)

- 洋館下之間
- 盛花 花器 麦壺手陶器瓶
 - 花 庭桜 土佐みずき 猿蓑杉
 - 茨 斑入椿 蓮華
 - 姫子つつじ むべ 接骨木
 - 山桜桃 メ十種
- 粧飾棚
- 取交 三拾九個
- 印籠
- 取交 三拾九個
- 置物
- 暖炉上 了人猿
 - 全上 直人箱作 芭蕉翁像

- 洋館一階広間
- 床 雪舟 豊干禪師に幅
- 床前 黒無地平卓
- 卓上に雲鶴青磁の香炉
- 花生 唐津船形 鎖り鉤
- 座布団 絹細
- 真盆 朱光院 火入桶側
- 手炉 籠彫手付

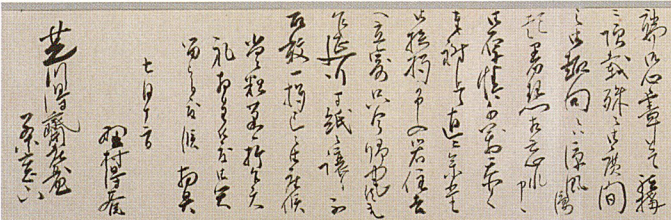


写真4 住友吉左衛門からの礼状(大阪府立中之島図書館蔵)

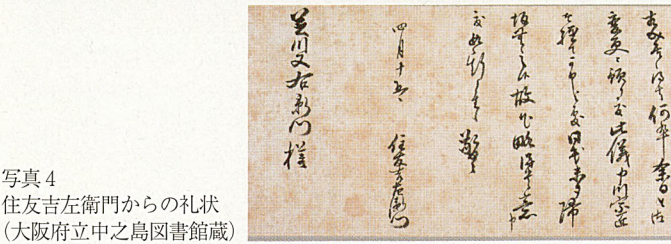
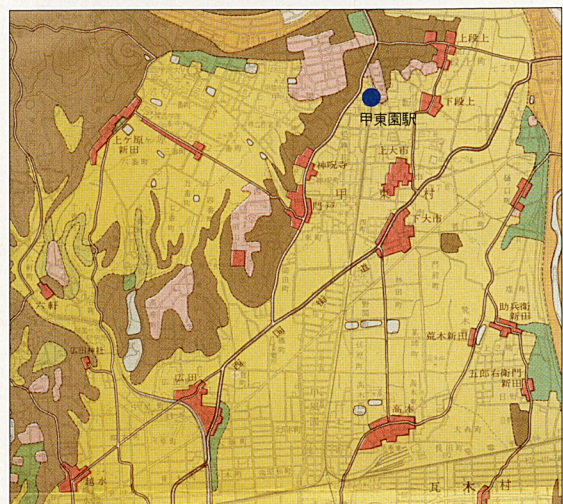


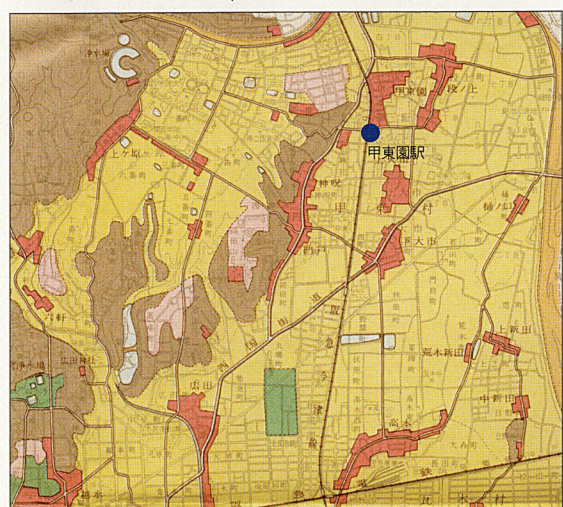
写真4 住友吉左衛門からの礼状(大阪府立中之島図書館蔵)



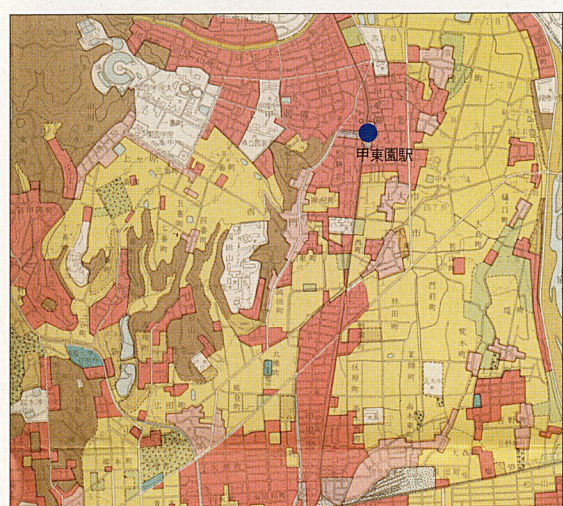
写真5 「大正九年七月比丘会」(大阪府立中之島図書館蔵)



1 明治末年
 住宅 果樹園
 村落 樹林・山地
 水田 畑



2 大正末年
 住宅 果樹園
 村落 樹林・山地
 水田 畑



3 昭和35年ごろ
 住宅 森林
 村落 畑
 水田 軽工業区
 果樹園

写真14 「甲東園の土地利用の変遷」(1967年 西宮市史より)

甲東園の住宅開発

甲東園の最寄り駅は阪急今津線甲東園駅です。今津線は最初西宝線(西宮―宝塚間)として大正十年(一九二二)開業しましたが、当初は甲東園に駅はなく、二代目又右衛門が当時の阪急社長の小林一

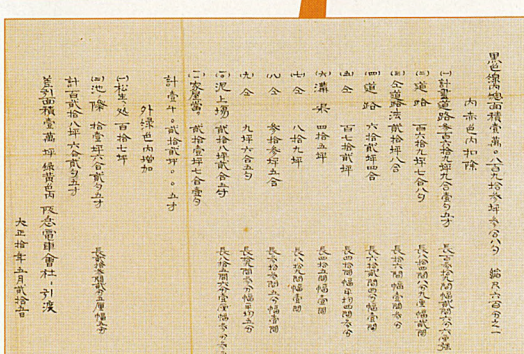
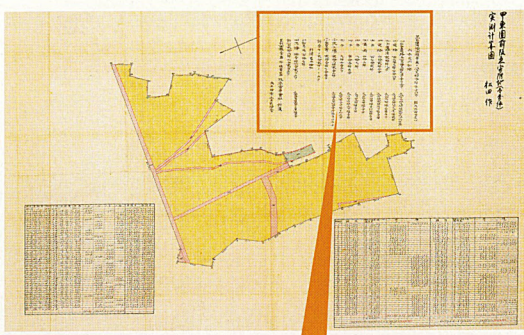


写真12 「阪急電鉄へ寄附地実測図 甲東園」(1916年 千島土地株式会社蔵)

沿線随一のすばらしい環境

上甲東園分譲地御案内

◆ たいま 住宅金融公庫による全貸付保証 ◆

建坪—14^坪—18^坪
 敷地—60^坪—68^坪
 融資金—47^{万円}(18^{ヶ月}返済)
 総借入金—47^{万円}—68^{万円}

水道・ガス完備

阪急甲東園駅より 七分—十二分

お申込は 百又株式会社

本社 大阪市東区伏見町四丁目三番 電話 0137
 支店 西宮市上甲東園二丁目六番 電話 448

写真13 ポスター 上甲東園分譲地御案内(千島土地株式会社蔵)

神戸より移転した関西学院など学校を中心とした土地開発である点で、本格的な住宅開発は第二次世界大戦後の昭和二〇年代後半から開始されました(写真13)。土地開発の様子を見ていくと、ほとんどが水田や果樹園であった甲東園が大正・昭和と時を経るごとに住宅地へと変化していく姿を見ることが出来ます(写真14)。

この展覧会が当時の人々のあこがれの郊外住宅「芝川又右衛門邸」の魅力を再発見していただく場となれば幸いに存じます。

人の有に帰し(中略)其々取り毀ちて楼門及観月台ハ当市市役所前に移築中 茶室は三井家の邸内へ移築中に有之候……(後略)(写真11)

有楽好厩の茶室とは、明治四十一年に東京の三井家へ移築され、現在愛知県犬山市の有楽苑内に移築されている国宝茶室「如庵」にほかなりません。これらの書簡から芝川家と武田五一は甲東園に別荘を建てる少なくとも四年ほど前から交流があったと推測することができます。

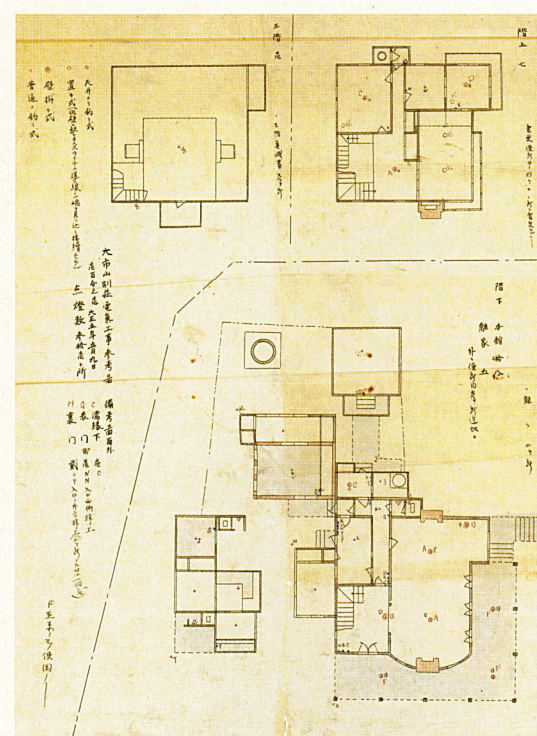


写真9 「太市山別荘電気工事参考図」(1916年 千島土地株式会社蔵)

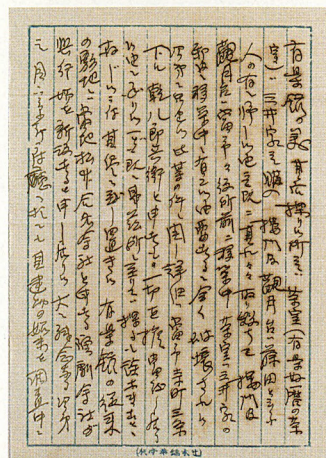


写真11 武田五一 芝川又右衛門宛書簡(大阪府立中之島図書館蔵)

いつ頃から芝川家と武田五一の関わりができたのかは明確ではありませんが、手掛かりとなる書簡をここに紹介します。書簡は一通あり、一通は武田が明治三十六年から勤めていた京都高等工芸学校(現在の京都工芸繊維大学)の便箋を用い明治四十一年四月十八日の消印が押されています。前半は芝川家から依頼を受けた老人車(現在の車椅子)に対する返答で、後半には芝川家から問合せを受けた有楽館という建物について今後調査しその結果がわかり次第連絡するというものです。二通目はやはり前半は老人車についての詳細で、後半に有楽館について以下のように答えています。

「有楽館の義 其後 探り候所ニテハ茶室(有楽好厩の茶室)ハ三井家ニテ購入 楼門及観月台ハ藤田ト云ふ

芝川又右衛門邸は武田五一の設計によるものであることはこれまでに何度かご紹介させていただきました。また芝川邸で使用された家具は「明治村だより四十一号」で紹介させていただいていますが、武田五一がどの程度家具や内装に関わったかは明確になっていません。今回の調査で武田五一の家具設計図一点、照明器具設計図七点が発見されました。

家具は芝川家に旧蔵されていたベンチで、芝川邸移築時に当館へ寄贈されたものですが、この度その図面が発見され、図面には鉛筆書きで武田が「1911」とサインしています(写真10)。この芝川邸は何度も増改築がなされており、邸内の家具は室内意匠の変化に伴い変化していると考えられますが、未だ詳細はわかっていません。

また照明器具の図面は、大正五年(一九一六)に甲東園の電気関係の改造がなされたときのもので、七種類の照明器具が新たにデザインされ、その配置場所や数量も図面に指示されています。これは解体時に遺されていた照明器具とほぼ一致しており、今回の復原に際しても図面と同じデザインの照明器具が用いられています(写真9、10)。

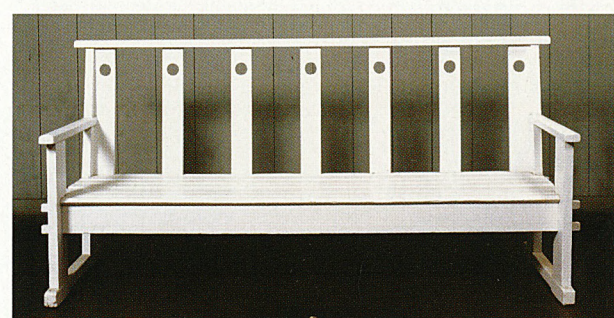


写真6 ベンチ

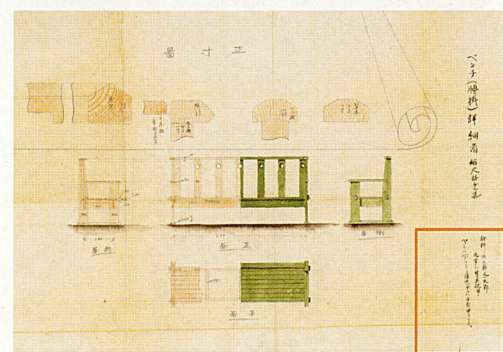


写真7 ベンチ図面(1911年 千島土地株式会社蔵)

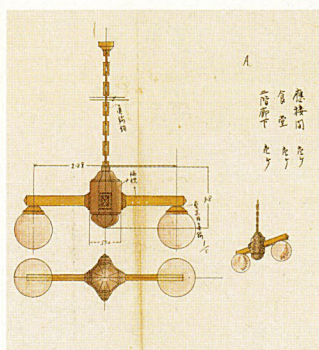


写真10 「照明器具図面 A」(1916年 千島土地株式会社蔵)

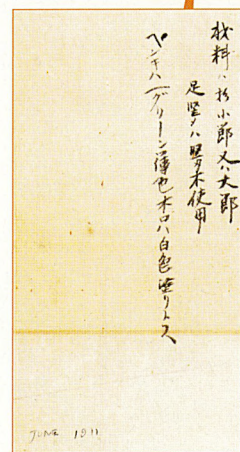


写真8 ベンチ図面詳細(1911年 千島土地株式会社蔵)

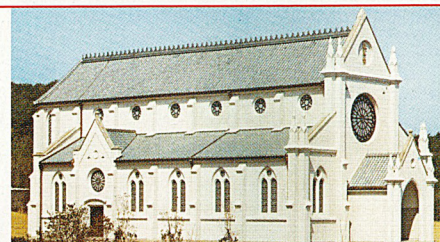
村の秋祭り

明治村トリエンナーレ'07

秋 芸能・芸術祭

●平成19年9月15日(土)～11月25日(日)●

- 大嶋芳クラシックギターリサイタル 9月15日(土)〈聖ザビエル天主堂〉
 - フルートコンサート 10月14日(日)〈聖ザビエル天主堂〉
 - 遊字アート展 11月3日(祝)～9日(金)〈東山梨郡役所〉
 - 座うたご 秋のソングコンサート(合唱と芝居) 11月18日(日)〈呉服座〉
 - 華麗なる秋のカント・カント・カント(男声ソロ) 11月25日(日)〈聖ザビエル天主堂〉
- など期間中は約30件の様々な分野の芸能・芸術をお楽しみいただけます。



明治村トリエンナーレ'07 特別興行

東京やなぎ句会「明治村大句会」

さまざまな分野で活躍中の「東京やなぎ句会」の面々が、小沢昭一・村長ゆかりの明治村に集まり、公開大句会を開くことになりました。それぞれの面白おかしいトークショーと名句・珍句の飛び出す句会をたっぷりお楽しみ下さい。



出演：東京やなぎ句会：
小沢昭一、永六輔、柳家小三治、
入船亭扇橋、加藤武、大西信行、矢野誠一
ゲスト：つボイノリオ
※出演者は予告なく変更する場合がございます。

INFORMATION

期 日：10月17日(水)
場 所：呉服座
時 間：14：00～ 開場は13：30～
鑑 賞 料：前売券4,500円、前売入村セット券5,500円、
当日鑑賞券5,000円 ≪250席・全自由席≫
後 援：中日新聞社、CBCラジオ

※当日鑑賞券は10時より呉服座前にて販売いたします。前売券が完売の場合は当日鑑賞券を販売いたしませんので予めご了承下さい。

※前売券(席確保券)は、名鉄駅サービスセンター・金山駅、チケットぴあ【びあ各店、サークルK、サンクス、ファミリーマート(0570-02-9988・9999 Pコード=379-646)】、楽天明治村店で【10月13日まで】発売!

※当日鑑賞券は前売券(席確保券)が完売の場合は販売いたしませんのでご注意下さい。

越中八尾のおわら踊り

毎年9月に、富山県八尾町で行われる越中八尾のおわら踊り「風の盆」が今年も明治村で再演されます。明治村の秋の風情とともに胡弓の哀調帯びた音色と流麗な舞いをご堪能下さい。

出演：富山県民謡越中八尾おわら保存会

INFORMATION

10月27日(土)
〈街流し〉13：30～14：00【帝国ホテル前周辺】
〈呉服座公演〉14：30～15：00【呉服座・有料】
〈輪踊り〉15：10～15：30【呉服座前】

10月28日(日)
〈街流し〉11：00～11：30【帝国ホテル前周辺】
〈呉服座公演〉●12：30～13：00 ●13：30～14：00【呉服座・有料】
〈輪踊り〉14：10～14：30【呉服座前】
呉服座公演鑑賞料：700円(入村料別途必要)

※街流し・輪踊りは野外公演の為、天候により中止させて頂くことがあります。雨天時は、街流し公演を舞台踊りとして帝国ホテル内で行います。

※呉服座公演の前売鑑賞券(席確保券)は、名鉄駅サービスセンター・金山駅、チケットぴあ【びあ各店、サークルK、サンクス、ファミリーマート(0570-02-9988・9999 Pコード=379-646)】、楽天明治村店で【9月15日から10月23日まで】発売!

※前売鑑賞券は当日呉服座前にて座席指定券と引換いたします。※当日券は前売鑑賞券(席確保券)が完売の場合は販売いたしませんのでご注意下さい。

秋のハイカラ午餐(予約制・定員制)

- ①10月13日(土)・20日(土)
- ②11月17日(土)・18日(日)
- ③11月24日(土)・25日(日)

お食事前に会場となる建物の非公開箇所や、当日ご参加のお客様だけに特別公開する明治村収蔵展示物を学芸スタッフが詳しくご説明し、その後有名店調製のご昼食をお楽しみいただくプレミアムな企画です。お食事後にはお抹茶とお菓子もお楽しみいただきます。

お食事会場：①西園寺公望別邸「坐漁荘」と「赤染庵」(ご案内のみ)
②・③学習院長官舎
定 員：16名(最少催行人員8名)
受 付：事前にご予約を頂き、当日入村窓口で料金をお支払い頂き、各建物前に11：05までに直接お越し下さい。11：15～13：30頃、お食事前にお食事される建物をガイド付でご案内いたします。
料金(税込)：8,000円(特別ガイド料金、お食事代含む。入村料別)・大人のみ入村セット券(税込)9,000円もあります。
※事前予約制
※キャンセル料は5日前までは無料。前日までは料金の半額、当日は全額となります。 ※お土産付
調 製：①・②フレンチ創作料理 なり多、③志ら玉
※お座席でのお食事となります。



写真料理例/なり多

「芝川又右衛門邸」公開

●9月22日(土)～●

明治村13年ぶりの移築復元となる「芝川又右衛門邸」がいよいよ公開されます。移築64棟目となるこの建物は関西近代建築の父といわれる武田五一氏が設計したもので、兵庫県西宮市にあり阪神大震災で一部倒壊し、明治村で保管されていましたが、ボランティアや寄附など様々な方々の力により、2年半の歳月をかけて復元されました。

(1) 一般公開 9月22日(土)〈芝川又右衛門邸〉
10：45よりオープニングセレモニーを行い、その後一般公開いたします。

(2) 芝川邸公開特別企画展「あこがれの郊外住宅」

〈三重県庁舎〉

9月22日(土)～11月4日(日)

郊外住宅として日本住宅史における芝川又右衛門邸の位置付けについてを紹介するとともに、旧所有者の芝川家や設計者の武田五一氏についてご紹介いたします。

(3) ガイド 9月22日(土)～

●建物ガイド

時間 11：00、11：20、11：40、13：00、13：20、13：40、14：00、
14：20 ※14：40、※15：00(※印は土日祝のみ)

●特別ガイド

日時 10月13日(土)、20日(土)、11月10日(土)、24日(土)

14：40～(約1時間)

※芝川又右衛門邸前にて受付。

※14：40～、15：00～の通常ガイドは中止。

内容 芝川又右衛門邸をガイドでご案内したのち、芝川又右衛門が茶会等で客人をもてなした2階の和室でお抹茶とお菓子をお楽しみいただけます。

参加費 1,000円(当日受付時に現金にてお支払い下さい。)

明治村HPからお電話でお申込下さい。 各日先着定員15名

(4) 芝川邸公開記念シンポジウム「芝川又右衛門邸をめぐるって」

日 時/9月22日(土) 13：30～15：30

会 場/聖ザビエル天主堂

パネラー/坂本勝比古(神戸芸術工科大学名誉教授)

足立裕司(神戸大学教授)

西澤泰彦(名古屋大学准教授)



昭和初年の頃の芝川邸



復原工事中(平成19年8月)

記念日祭

燈台記念日 品川燈台特別公開

燈台記念日(11月1日)を記念して、現存最古の洋式燈台である品川燈台(重要文化財)内部を特別公開いたします。併せて菅島燈台付属官舎にて明治期の燈台の紹介や最新灯器の展示、ゲームなどを開催します。

11月3日(祝)、4日(日)

〈品川燈台・菅島燈台付属官舎〉

協力：第四管区海上保安本部交通部・

社団法人 燈光会



明治村写真コンテスト 入賞作品展

9月15日(土)～10月14日(日)
〈東山梨郡役所2階〉

催しは予告なく変更されることがあります。

瓦屋根を見上げて

●ブラジル移民住宅 (4丁目39番地)



写真1 ブラジル移民住宅



写真2 創建当初のブラジル移民住宅

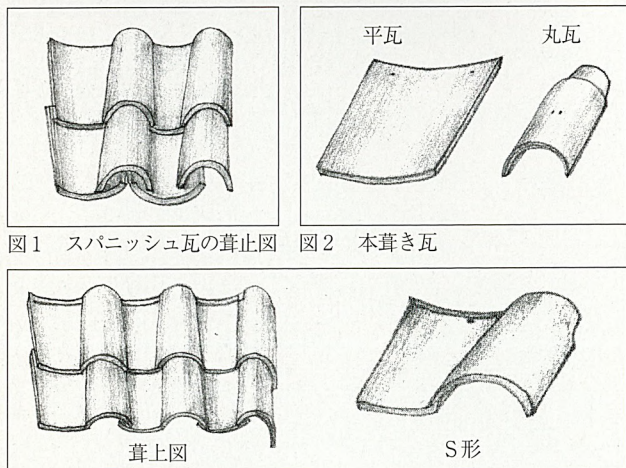


図1 スパニッシュ瓦の葺止図

図2 本葺き瓦

図3 S形瓦

四丁目に建つこの木造二階建ての建物(写真1)は、大正八年(一九一九)、久保田安雄氏の住宅としてブラジル・サンパウロ州レジストロ市に建てられた「ブラジル移民住宅」です。明治四十一年(一九〇八)以来、ブラジルに渡った移民たちがサンパウロ周辺で慣れないコーヒー栽培に苦闘を重ねた歴史を、静かに物語っています。久保田氏は結婚直後の大正六年(一九一七)、長野県からブラジルへ移住します。長男も生まれた結婚三年目の二十五歳と十九歳の若い二人は、この地に根を下ろすことを決意し、住宅の建設を始めます。同じ入植者の大工棟梁の指導の下、二人の大工と久保田氏夫婦は建築資材などをすべてを自ら調達するため、周囲の原始林を切り拓きます。堅いカネーラなどの大木を運び出し、鋸、鉋、手斧で用材に加工するところから始まりました(写真2)。「壁はジュサラ(椰子の一種)を割って、山からシッポアの蔓を取って来て縄の代わりにして、ジュサラ

を結び合せて泥と薬を練った壁土を下塗りにしてコテで上塗りをしたのです。(原文)と久保田氏が回想しているように、現地の材料を使い和風の工法で建てられたものです。しかしその一方、二階に設けたベランダや、片開き板戸を付けた窓には土地の風土に合わせた素材がたまたまよっています。そして最も特徴的なのが、屋根に葺かれた現地産のスパニッシュ瓦(写真3)です。スパニッシュ瓦とはスペイン産の洋瓦のことで、竹を割った形に似ているので、わが国では俗に「竹丸」とも呼ばれていました(図1)。下丸瓦に上丸瓦をかぶせて葺く方法で、日本の本葺き瓦(図2)のように、山と谷が別々の瓦で構成されています。スペインに行くとその土地の土を焼成した赤褐色の瓦が目につきますが、当時ブラジルにおいても一般的で調達可能な瓦でした。ブラジルでこの住宅が建てられた大正

期、実は日本においてスパニッシュ瓦を使用した洋風建築が大流行します。当時アメリカで流行していたスペインゆかりの様式(ミッシェン様式)と共に、アメリカのスパニッシュ瓦(当初アメリカ瓦と呼ばれていた)が日本に輸入され、大正モダン様式の象徴的な建築材料として、爆発的な人気を博したのです。上丸瓦と下丸瓦の組み合わせが屋根に立体感を持たせ、その明るく鮮やかな茶褐色が洋館を誇示したようです。屋根全体ではなく、建物の一部や庇に使うという使われ方もされるほどの人気でした。この流行が契機となり、大正末期、三州瓦の生産地、愛知県三河地方で日本独自の瓦が開発されま

す。それがS形瓦(図3)です。「S」はスパニッシュに由来しているとも言われていますが、スパニッシュ瓦の上瓦と下瓦を一体化させS字形をしているところからS形瓦と呼ばれています。山と谷を一体とした一枚瓦で形成させた結果、雨仕舞い、施工性、コストパフォーマンスなどが著しく向上して普及しました。スパニッシュの流行が日本に新しい瓦をもたらしたのです。このS形瓦、今回新たに明治村に移築公開される芝川又右衛門邸で見ることが出来ます。今回の移築に際しては特注のS形瓦が使われています(写真4)。

「ブラジル移民住宅」と「芝川又右衛門邸」。明治村に移築されたこの二棟がスパニッシュ瓦というキーワードで繋がって、明治から大正、昭和にかけて、スペイン・アメリカ・日本・ブラジルとグローバルに地球を巡る建築デザインの世界を想像させます。是非、明治村で一際目を引くオレンジ色の屋根瓦を探してみてください。

参考文献
坪井利弘「日本の瓦屋根」理享社

アメリカを変えた ハワイの日本人

本田 正文

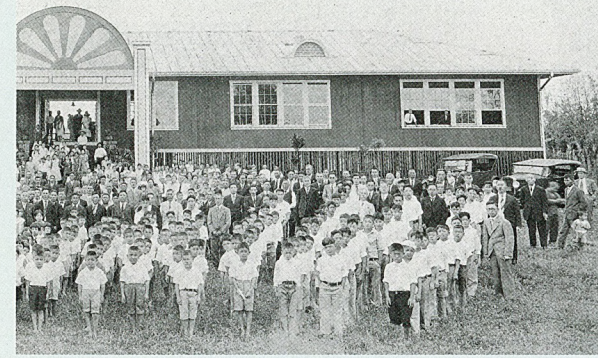


写真3 ハワイ島バホワ日本語学校 1920年代

ハワイと言えはオアフ島のワイキキやホノルル、という時代から、ハワイの他の島を目指す観光客がここ数年増えてきました。特に一番大きなハワイ島はキラウエアなど有名な火山がある割にはあまり知られていませんでしたが、最近ではハワイ島まで足をのばす日本人観光客が増加してきました。ハワイ島のワイメアでは二月に桜が咲きます。ハワイで最初に開花した桜は、一九五三年に布哇報の創設者である牧野フレデリック金三郎氏の死を悼んで植えられた桜です。この一九五三年の一年前、一九五二年はハワイの日系人にとって重要な意味を持つ年です。なぜかというときアメリカ市民権は、戦後まず、日系アメリカ兵の妻となった多くの日本人女性に与えられました。そしてこの一九五二年、戦争中アメリカ政府によって強制収容所に入れられたりし

た一世達のために、二世が中心となってアメリカの憲法を改正させて、一世の日本人にも、アメリカ市民権が与えられるようになりました。これを契機に、日本人だけでなく中国人も韓国人も、どのアジア人もアメリカ市民権を得ることができるようになりました。牧野フレデリック金三郎氏は、第一次世界大戦でアメリカ兵になった一世の日本人たちにアメリカ市民になる道を示した人であり、日本語学校がアメリカのカリフォルニア州やハワイ州政府によって廃止されようとした時に二世や一世の親のために立ち上がったハワイの日系人社会のリーダーでもあります。一九二〇年には、ハワイではすでに二〇六五一人の二世が英語学校(ハワイの公立学校)の後、毎日日本語学校に通って「修身」や日本語を勉強していました。しかし一九二〇年と一九二三年に続けて日本語学校へ圧力をかける法令が州議会を通過しました。彼はそれに対してハワイ州政府を相手に訴訟を起こし、一九二七年にアメリカ最高裁判所で勝訴し、日本語学校をはじめ他の外国語学校の権利を守りました。移民が自らの権利を守る



写真4 明治38年(1905年)ハワイ島にて大槻幸之助(右から二人目)

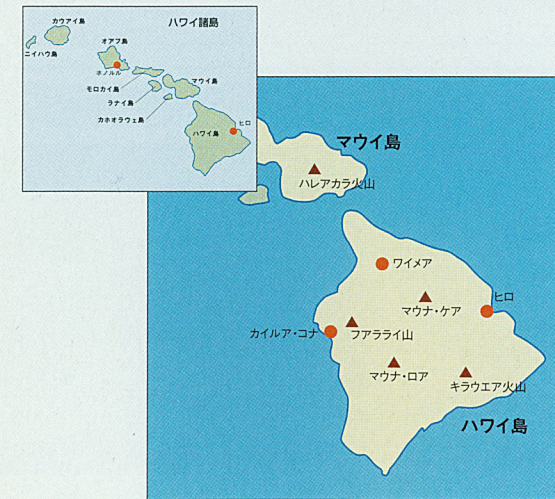


写真5 ほんだ・まさふみ(布哇)ヤバニムセンター長

ため立ちあがったルートは、ずっと遡って移民初期の時代の一八八五年、キビ畑で労働契約違反をめぐってハワイ島パイコ耕地で仙台出身大槻幸之助ほか十五名によるストライキといわれています。さらにハワイの一世と二世たちはアメリカ議会を動かして、東洋系市民が多いために立州は不可能と思われていたハワイを一九五九年(昭和三四)にアメリカ合衆国五〇番目の州にしたのです。州になるや、合衆国下院議員に井上ダニエル健氏が当選し、ハワイ州議会に井上ダニエル健氏が当選し、下院議員の五十五名中二十二人を日系二世が占めました。一九六一年には、米国内閣議員に井上議員が下院には松永スバーク正行氏が当選し、アメリカ議会へバイリンガルの二世たちが進出してアメリカ改善の原動力となっていました。

写真3 ブラジル移民住宅のスパニッシュ瓦



写真4 芝川又右衛門邸のS形瓦